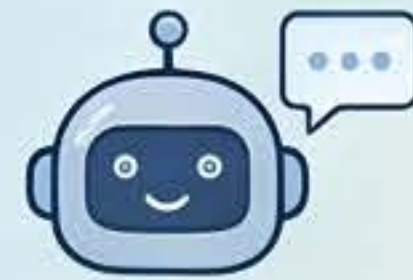


特許侵害予防調査（FTO）のAI化：2025年 vs 2026年の進化

2025年
(第34回)

2026年
(第35回)

汎用的な支援からFTO専用機能へ



分類



対比表作成

AIの説明単位：
読解 (Reading)



提供形態：各社の専用画面が中心

人の役割



専門家による討論・事例紹介

過去最大規模のフェア：

出展171社

講演108テーマ

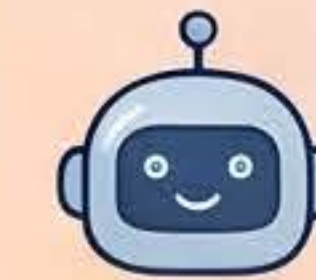
来場者15,502名

(2026年の記録と対比)



AI化の本質は、工程、判断根拠、人とAIの役割分担が具体的に語られ始めた点にある。

汎用的な支援からFTO専用機能へ



該否評価



判断理由の提示



AIの説明単位：
判断 (Judgment)

次のアクション提案



提供形態：MCP対応の横並び、内製化支援

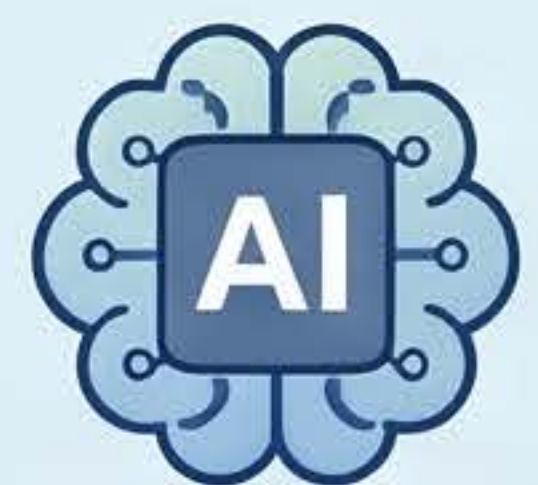
人の役割



観点設定、AI出力の検証、弁理士の責任

2026年に現れた3つの新潮流

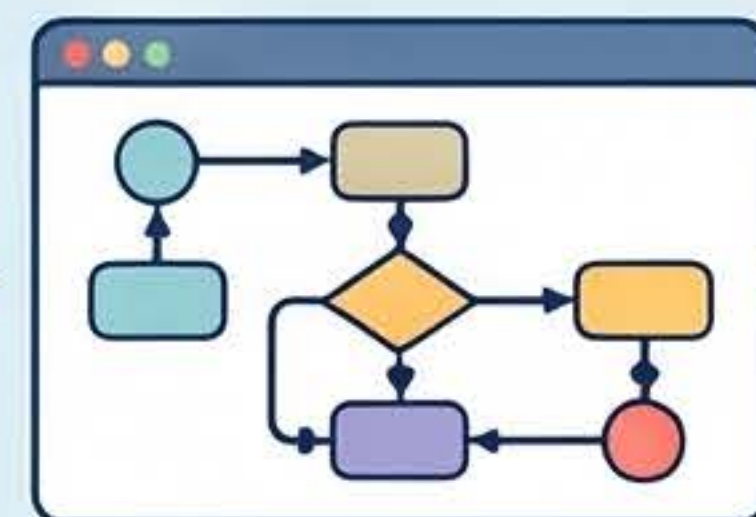
MCP対応による「調査フローの内製化」



全積AIエンジン



特許
データベース



自社独自の判定フローを構築

「攻め」と「守り」のシステム一体化



侵害発見
(Offense)



侵害予防
(Defense)



性能表示の法的争点化と検証の重要性



広告農告



法務証書



自社での
再現検証が急務